

# 図書館だより

No. 1

平成27年4月17日

京都府立鴨沂高等学校図書館★発行 (京都市上京区相寺門前町 709)

## Welcome to Our Library!!

図書館へ  
いらっしゃい!!

▶ 開館時間 ... 月曜～金曜  
8:30am～16:40pm  
(検査中は 13:10まで)

貸出・返却…手続きは、簡単です!!

- ★本を借りたいときは・・・開館時なら、いつでもOK!!  
借りたい本をカウンターへ持って来て、  
「学年・クラス・出席番号」を申し出ただけで、  
貸出手続きが完了。(返却期限日を確認してください!)
- ★本を返すときは・・・カウンターで手渡すだけ!!

いつでもすぐに貸出利用をしていただけるように、  
みなさまのIDを準備して、お待ちしております。

☆ たくさん利用してくださいね ☆

貸出の上限冊数は、

一人につき4冊まで!

期限は通常1週間です!!

\* 延べ貸出冊数が

30冊を越えると……6冊まで、

60冊を越えると……8冊まで、

100冊を越えると……10冊まで、

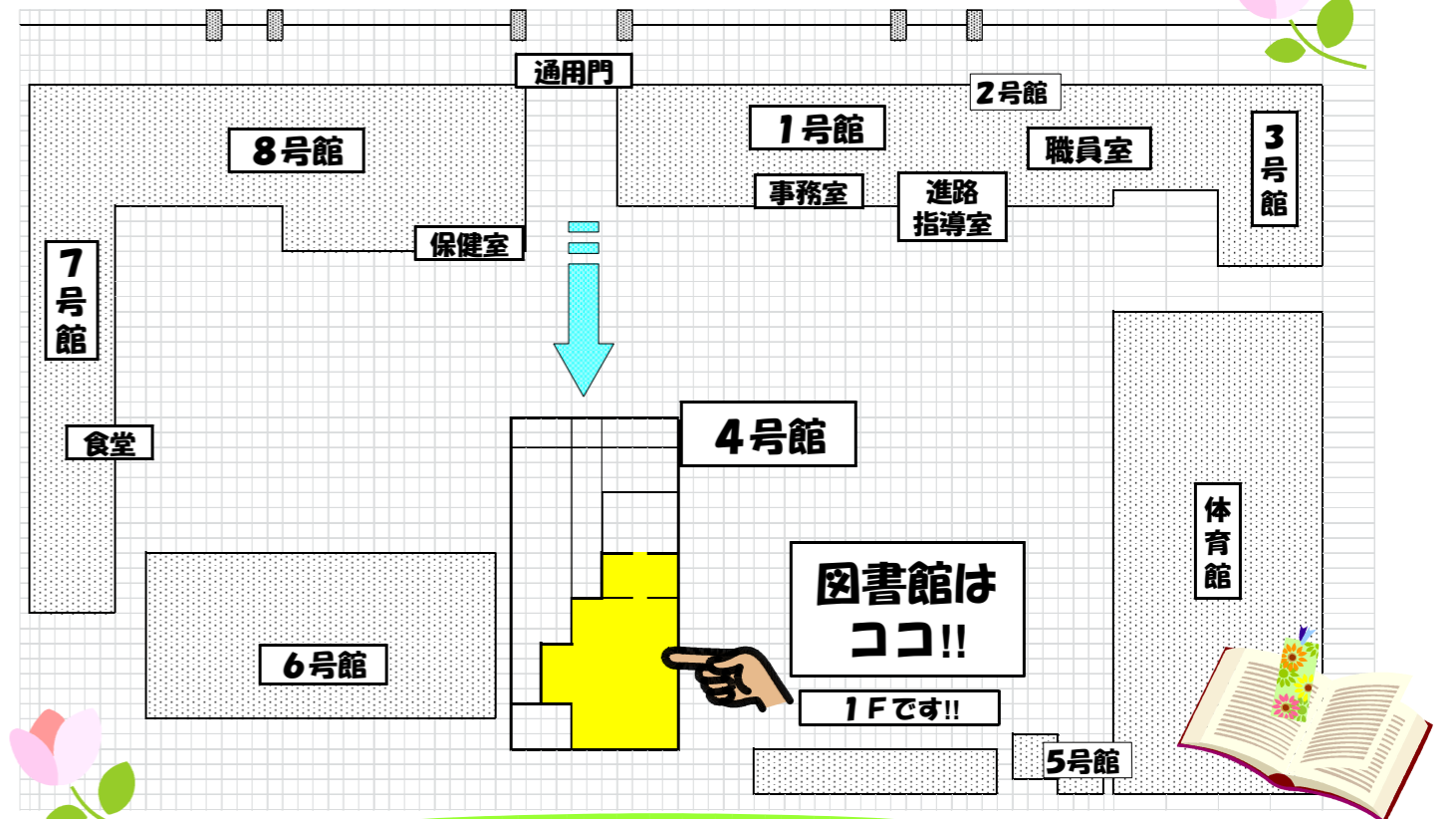
貸出OKになります!!

返却期限を  
守ってくださいね!!

たくさん  
本を  
読みましょう!!

貸出期限が過ぎている本を持っている人は、  
大至急、返却してください!!

## 図書館は4号館1Fです!



## 読んでみませんか?...

『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス 著

4月10日から放送が始まったTBS金曜ドラマの原作。今までに何度もドラマや映画になった作品です。演劇の脚本もあります。今回のドラマでは、どのような演出がなされ、どのような結末になるのでしょうか...? 原作では主人公の独白によってお話が進んでいきます。本当の幸せとは何か...! 心の奥深いところに届く感動の物語...。あなたも読んでみませんか...?!



第12回  
2015年  
本屋大賞

大賞  
『鹿の王』

上橋菜穂子 著



2位  
『サラバ!』

西加奈子 著



3位  
『ハケンアニメ!』

辻村深月 著



4月7日に発表された、  
今年の「本屋大賞」!!  
大賞・2位・3位の本が  
図書館にあります!あなたも  
読んでみませんか?

裏の記事も 読ん  
でくださいね!

# おすすめの**本**

京都市内・乙訓地域の府立高校の 学校図書館司書が、2013年1月～2014年10月の間に日本国内で出版された本(文庫化・新書化された本を含む)の中から、高校生のみなさんに特におすすめしたい本を、小説部門・ノンフィクション部門に分けて、17タイトル選定しました。

題して『高校生にすすめるベスト・ブック2015』!

その中から、小説部門の6タイトルとノンフィクション部門の3タイトルをご紹介します。

★おすすめしたい本ばかりです! 読んでみてください!!★

## 小説部門

あさのあつこ 著

『グリーン・グリーン』 徳間書店 2014年8月刊行

失恋がきっかけで、とある田舎の農業高校教員になった都会育ちの新米教師翠川真緑(みどりかわみどり=グリーン・グリーン)の奮闘の毎日を描くさわやか小説。新米ならではの失敗や発見をしながら、高校生や土地の人たちとつながっていく姿がいい感じ。



## 『初恋料理教室』

藤野恵美 著

ポプラ社 2014年6月刊行

京都の町屋での料理教室に通う4人の男性。そのひとり、智久が料理を習い始めたきっかけは、図書館で出会った女性の一言だった。料理を通して、男性たちの日常に変化が訪れるなか、智久の恋の行方は…?

美味しい料理の描写に空腹を感じるかもしれませんが、あたたかい物語が心を満たしてくれます。



## 『本屋さんのダイアナ』

柚木麻子 著

新潮社 2014年4月出版

「腹心の友」となった、小学校3年の矢島大穴(ダイアナ)とクラスメイトの神崎彩子。二人は6年生の卒業間近にある事がきっかけで仲違いをしてしまうのだが…。10年後の邂逅が胸を打つ、本好き・書店好きには、オススメの一冊! (2015年第12回本屋大賞第4位!!)



『花や咲く咲く』あさのあつこ 著 実業之日本社 2013年8月刊行

約70年前の太平洋戦争下の日本。いつの時代でも若い女子の関心はファッション・スイーツ・おしゃべりにある。本心を抑えて「うちは非国民?」と後ろめたさを抱えつつ、懸命に生きる女学生4人組の青春が愛惜をもって描かれている。



## 『明日の子供たち』 有川浩 著

幻冬舎 2014年8月刊行

児童養護施設を舞台にした物語。そこで暮らす子供たちと養育を担当する職員、双方の視点から描かれる。「明日」を生きていくために、今必要なことは何か— 実際に施設で育った少女の手紙から生まれた、有川浩渾身の一作。



## 『Know』野崎まど 著

早川書房 2013年7月刊行

全ての人の中頭に電子的な脳葉を移植し、あらゆる情報があらゆる場所で取得できる時代。「知っている。」という言葉の意味が世代によって異なってしまった。「この世界最高の情報処理能力をもった少女」の行動の目的は何か? 最後の一行に魅せられます。



## ノンフィクション部門

## 『紙つなげ! 彼らが本の紙を作っている』

佐々涼子 著 早川書房 2014年6月刊行

最初「紙つなげって何??」と思いましたが…。この本は紙だけでなく、災害にあった時の対処法や、企業の経営や人間としての生き方などいろんな大事なものが詰まったすごい本です。



## 『境界を生きる ; 生と性のはざままで』 毎日新聞社

毎日新聞「境界を生きる」取材班 著 2013年2月刊行

心と身体の性が一致しない「性同一障害」。染色体や生殖腺等の性別があいまいだったり、一致しなかったりする「性分化疾患」。「性」の狭間に苦悩する人たちがいる現実に私たちは認識を改める必要があるだろう。



## 『誕生日を知らない女の子』

黒川祥子 著

集英社 2013年11月刊行

親の虐待を受け、保護された子どもたちを描く。「ファミリーホーム」で初めて一般家庭を体験する子もいる。虐待がいかに子どもたちを傷つけ、人生に影響を与えるのかを知ってほしい。2013年開高健ノンフィクション賞受賞作。



裏の記事も読んでくださいね!